

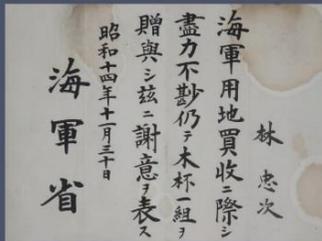
豊川海軍工廠の建設

昭和11(1936)年、海軍は新設工廠として仮称「A廠」(後の光海軍工廠)と仮称「第二A廠」の建設計画を決定し、昭和13(1938)年6月1日に「第二A廠」の建設用地として、旧宝飯郡豊川町・牛久保町・八幡村にまたがる「本野ヶ原」と呼ばれる地域が選定されました。海軍の工場であれば、横須賀・呉・佐世保などの軍港に近い場所を選定するのが妥当かと思われませんが、「第二A廠」は艦船や航空機の機銃及びその弾丸など輸送が容易な兵器の生産を行う工廠で、必ずしも軍港に近い場所である必要はありませんでした。



豊川町商工会宣言文

昭和13年(1938)年10月26日に豊川町商工会が出した宣言文。豊川町に隣接して大工場が建設されるのを契機として、町の発展に商工会が一致協力するよう記されています。



海軍省用地買収謝意状

広大な面積である工廠建設用地の買収は、地元住民の生活を脅かすものでもありました。予定地の多くを占める本野地区は、生活の糧とする耕地が多かったのですが、国全体が戦時体制への協力を進める中、戦局を左右する兵器工場の用地買収を拒否できる状況ではありませんでした。苦悩した住民らは、建設予定地の変更や低い買収価格を実勢価格にすることを要望しましたが聞き入れられませんでした。

体験者の証言

昭和十一年頃であつたらうか。支那事変が益々長期化、深刻化の様相を示し始めると、我が国と米英間の緊張は一段と高まり……

体験者の証言

昭和十三年七月、この豊饒穏和な小部落に突如、一大事件が起こつた。海軍が軍需工場を建設するというのである。……